

刃長 741mm 反り 24mm 元幅 27.0(27.9)mm 元重 6.5mm 鎬重 7.2mm 先幅 17.0(17.3)mm 先重 3.9mm 先鎬重 4.7mm

鎬造り、やや低い庵棟、腰反り深く踏ん張りつき、先、伏しごころに小切先で結ぶ。鍛えは板目に杳交えて流れ、地沸ついて肌立ち、地景入り、淡く乱れ映りが立つ。刃文は直ぐ調の小乱れに小丁子・小互の目を交じえ、刃淵に小沸厚く付いてほつれ、足入り、金筋・砂流し頻りに掛かる。帽子、表は直ぐ、先小丸風に沸くずれ加減。裏は小さく湾れこんで小丸。ささやかな二重刃が掛かる。茎、雉腿に仕立てられ、先つまんで切、鑢目大筋違、茎棟僅かに肉、刃方厚みのある角。刻銘は朽ち込んで判読不能ながら下字には人偏の名残がある。

第16回特別重要刀剣。格調の高い、古青江典型作。

縮小率 43%



転載不可